＜様式１＞

令和５年度　江東区立なでしこ幼稚園　自己評価表

園長名　松岡　克恵

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域１	健康な心と体の育成				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・様々な体の動きができるような運動遊びやコオーディネーショントレーニングを取り入れたり日常の動作（立って靴を履く、姿勢、体を支える等）を意識したりし楽しみながら幼児の体力作りを行う。	89%	・自分から体を動かそうとし、体を動かして遊ぶことが好きな幼児が９５％以上になる。	96%	A
2	・手洗い、うがい、水分補給、生活リズムを整えること等健康な生活に必要なことを意識し実態に合った指導を行うと共に家庭と連携を図る	86%	・生活リズムが整い、健康な生活に必要なことを行える幼児が 90％以上になる	88%	B
3	・家庭とも連携を図りながら、幼児の食に対する意識を高められるような工夫をする	86%	・嫌いなものでも食べようとする幼児が 80％以上になる。	93%	A

＜結果についての分析と改善策＞

○分析

＜年少＞

①年間を通して戸外遊びと室内遊びの時間を区切り、戸外で追いかけっこや鬼遊びなど体を動かして遊ぶ機会を設けてきた。室内でも巧技台、ウレタンマット、コンビカーなど限られた環境の中で体を動かして遊ぶコーナーを用意してきたこと、思わず体を動かしたくなる環境を作ったことで体を動かすことを楽しめる幼児が多くなった。

②健康な生活に必要な習慣を身に付けられるように時期に応じて工夫してきた。家庭での経験の差や文化による違いがあり個人差が大きいと感じる。保護者と細やかな連携を図る必要があった。

③ミニトマトやキュウリ、カブなど季節に応じた野菜を栽培し、教師と一緒に世話をしてきた。収穫した野菜は家庭に持ち帰ったり親子で食べたりこどもだけで食べたりと段階をおって無理なく親しめるようにした。そのことで初めての野菜も「食べてみよう」と挑戦する姿が見られた。

＜年中＞

①学級で運動遊びをする時間を週１回以上もつようにした。１２名の学級なので弁当後はみんなで運動遊びが行えるように工夫した。運動会後は年長児の刺激を受け、体を動かして遊ぶことを楽しめる幼児が増えた。１月下旬からは全員が鬼遊びや戸外遊びに気持ちが向くようになった。しかし、姿勢の維持や体を支えることにつながる体幹を鍛えられるような活動が足りなかった。

②生活習慣は、繰り返し丁寧に行ってきたことで積み重なってきているが、時間がかかる幼児もいる。

③野菜の会食を通して、苦手なものでも１口は食べてみようとする幼児が多かった。家庭の中で少しずつ実践を呼びかけたが、全体的には食に対する意識を高められるような工夫はあまり行えなかった。

＜年長＞

①様々な体の動きを学級活動で全員が経験できるようにしてきたことで、体力がつき、年中の時は体を動かすことに消極的だった幼児も自ら運動遊びに取り組むようになった。持続時間も長くなり充実感を味わっていた。一方で、姿勢の維持が難しい幼児もいる。

③栽培したものを収穫して食べる経験を通して、野菜に関心をもち、食への興味が広がった幼児が多い。また、家庭でも、幼稚園での調理法をまねて、食事に野菜を取り入れてくれるようになり、保護者の意識にも働きかけることができた。

○改善策

①年少児はイメージをもって楽しめることを工夫したり学級全体で取り組む時間を作ったりしていく。年中・年長児は体幹を意識できるように引き続きコオーディネーショントレーニングにも取り組んでいく。

②生活リズム、生活習慣に関しては個別に対応したり保健相談所とも連携を図ったりしながら少しずつ変容が見られるようにする。

＜様式１＞

重点領域２	学びの基礎となる力を育む				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・幼児一人一人と信頼関係を築きながら実態や興味・関心を大切にしたわかりやすい指導や幼児がわくわくするような環境の構成を行う。	88%	・好きな遊びや学級全体の活動を楽しめる幼児が 90%以上になる	98%	A
2	・教師自ら自然物、自然現象、社会事象等に関心をもち幼児の知的好奇心や探究心を高められるようにする。（幼児の刺激となるような言葉がけ、環境構成、遊びのきっかけ作り等）	85%	・様々なことに興味・関心をもって関わり、不思議さやおもしろさを感じられる幼児、試行錯誤して遊ぶことを楽しめる幼児が 90%以上になる。	97%	A
3	・日々の点検、毎月の安全指導、降園時パトロール、避難訓練等を確実に行い、非常時に対応できるように危機管理体制を整える	89%	・安全指導、避難訓練の意味が分かり緊急時に適切に行動できる幼児が１００％になる。	87%	B

＜結果についての分析と改善策＞

〇分析

①どの学級も、教師が温和で、温かいかかわりや言葉かけを大切にしていることで、幼児が安心して過ごすことができている。集合時も楽しい経験を積み重ねることで、主体的に参加しており、その他様々な活動にも意欲的に参加する姿が見られている。

＜年少＞

①一人一人の実態に合わせて丁寧に関わり続けたことで、信頼関係を築くことができた。一つの遊びを何度も楽しむ幼児がいる反面、繰り返し遊ぶ姿がほとんどない幼児も数名いる。

・教師が様々な遊びを提示し、環境を用意する点では、3 歳児の実態、興味・関心を捉える視点が不十分な面もあり課題が残る。

②年少児なりに園庭の自然や栽培物に関わるために、イメージをもって遊びに取り入れられるような環境を工夫することができた。関心のもちかた、関わり方には個人差が大きい。

・安全面の指導はその都度、個別に伝えるようにしてきた。避難訓練前後には、ねらいやできていたことを認め、幼児自身も意識して取り組めるようにした。地震や火事を怖がり過ぎてしまう幼児と避難訓練の意味がよくわかっていない幼児もいたが、緊急時の行動の仕方は身に付いてきた。外国籍の幼児に対する伝え方には課題が残る。

＜年中＞

①信頼関係は日々のかかわりの中で築いていけたと思うが、わくわくするような環境の設定が十分でない時期があった。

・自然物や自然現象への関心は、日常的に話題にしたり掲示したりすることで高まった。社会事象に関してはほとんど話題にできなかった。色水遊びやどんぐり転がしなど、幼児が試行錯誤して遊ぶことを楽しめるような援助はある程度できたが、他のやり方や投げかけ方をしていたら違う経験ができたのではないかと思う。

③避難訓練の積み重ねで、頭では理解できるようになってきているが、いざサイレンを聞くとびっくりしたり、非常時に固まったりする幼児もいる。

＜年長＞

①言葉の面で、実態を正確に読み取れなかったり、幼児が関心をもっていることをうまくキャッチできなかったり、援助にズレが生じてしまったりすることも多かった。学級全体の活動では、言語の問題から、全員が理解して楽しむ、ということが難しいこともあり、試行錯誤しながらの活動が多かった。

②種の探求を通して、興味・関心があることにじっくり向かう経験ができた。また、数名の幼児だけでなく、学級に話題を広げ、保護者にも広げ、関心を深められたことで、知的好奇心を高める経験ができた。

③避難訓練について、外国籍幼児に活動の意味を毎回伝えても、臨場感がもてないことも多かったので、紙芝居や絵本で視覚的に伝える工夫をしてきた

〇改善策

①一人一人の発達段階、興味・関心を捉え、見守りつつ、様々な遊びに取り組む経験を重ねる中で、夢中になって遊ぶ楽しさが感じられるように援助していく。

・個別に支援を要する幼児の集合時の参加の仕方については、個別にねらいをたてる必要がある。配慮できることは配慮しながら（座る場所、タイミング、視覚的な教材など）、友達と一緒に過ごすことを楽しむことができるようにしていく。

②社会事象やスポーツ選手、ワールドカップなど、幅広く興味関心を広げられるように教師自らの意識を高めるとともに、柔軟な発想で保育に取り入れていく。

③避難訓練の意図が伝わるように、静止画だけでなく、動画を見る機会を作るようにする。

・個別に支援を必要とする幼児には段階を踏んで場や非常時という想定に慣れていく配慮が必要だった。

・保護者アンケートの安全点検に関する質問で「分からない」の回答が９％あった。発信の仕方を工夫し安心感がもてるようにしていく。

＜様式１＞

重点領域３	豊かな心情を育む				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・動植物に関心をもち、教師自らが積極的に関わり、栽培したり、自然物を遊びに取り入れたりする。	89%	・動植物に関心をもち触ったり収穫したりすることで世話の必要性や可愛さ等を感じられる幼児が９５％になる。	93%	A
2	・動植物に関心をもち触ったり収穫したりすることで世話の必要性や可愛さ等を感じられる幼児が９５％になる。	90%	・いろいろな友達との関わりを楽しんだり自分の気持ちの調整をしたりし、人と関わる楽しさや協力して遊ぶ楽しさを感じられる幼児が 90%になる。	94%	A
3	・遊びや生活の中で様々な感情体験ができるようにし、善悪の判断や道徳性の芽生えを育めるよう状況に応じて、幼児の心に響くような言葉を考えたり指導方法を工夫したりする。	88%	・相手の嫌がることはしない、きまりを守ることができる幼児、状況を考えて動ける幼児が 95%以上になる	84%	B
4	・持続可能な社会の担い手を育むという意識をもち、地球環境、多様性等について幼児に伝わるような働きかけや環境の工夫を行う。	74%	・物や人を大切にしたり、いろいろなことを想像したりしながら様々なことを考えようとする幼児が 70%になる	91%	A

＜結果についての分析と改善策＞

〇分析

① どの学級も季節ごとに自然物を遊びに取り入れたり、森で過ごす楽しさを感じたりしている。教師も一緒に自然の不思議さや驚きに共感する姿勢をもち、幼児の発想を楽しんで次の日の環境に生かしている。森の日は毎月、全学年で行くことで、他学級との交流が自然と生まれている。

＜年少＞

② 教師が栽培物に関心をもつことで幼児も意識が向くようになる。
- 友達に興味をもち、気の合う友達ができてきて、人と関わる楽しさを感じている。自分から友達に積極的に関わろうとする一方で、強い口調でやりとりする場面もあり、いざこざも増えている。
- 様々な国籍の幼児が、共に心地よく過ごせるように、言葉が通じなくても取り組めるような遊びの環境づくりや、一緒に楽しめるダンス等を意識して取り入れることができた。しかし、遊びの幅が広がってきたことで、文化の違いからイメージを共有できなかったり、うまくやり取りが成り立たなかったりする姿も見られ始めている。

＜年中＞

① 虫に興味をもつ幼児が多い。自然物を遊びに取り入れる工夫はしてきたが、教師がもっと関心をもって世話をしたり発見したりしたことを学級の幼児に伝えたりする等の工夫が必要だった。

② 集合時に、２人組や少人数の活動、ふれあい遊びなどを計画的に取り入れたことで、様々な友達と関わりがもてるようになった。外国籍幼児には日本語がわからないという面で理解が難しい活動もあった。全員が楽しめるような活動の検討が必要だった。

＜年長＞

③ 自分がされて嫌なことをしない、相手か悲しんだり、痛かったりすることが予想できることはやらない等善悪の判断ができるようになってきているが、積み重なりにくい幼児もいる。気持ちのコントロール、相手の気持ちを感じられるようにするための援助の工夫をしていきたい

④ 地球環境への関心を高めることはできなかった。多様性については、多国籍なクラスなため、言語にとらわれず、自分たちでコミュニケーションをとろうとしており、いろいろな考え方があって当たり前という気持ちが育まれ、互いを認め合うクラスになったことが成果である。

〇改善策

③相手への適切な伝え方や言葉、望ましい関わり方などを教師が手本となって示していく。また、きまりなどはその都度丁寧に言葉掛けをしていくとともに、肯定的な姿を認めることで周りの幼児に望ましい姿を知らせていく。家庭とも連携を図っていく。

・教師自身が様々な国籍の幼児に分け隔てなく接する姿を示していくとともに、必要な場面で丁寧に仲介をしていく。また、教師自身も外国籍の保護者に寄り添う気持ちをもち、それぞれの文化への理解を深める努力をする。

③幼児に分かりやすく、地球環境について考えるきっかけを作ったり、物を大切にしたり、「もったいない」という言葉を使ったりしてエコな感覚を根付かせていく。日々の保育が SDGs につながっていること（一人一人を大切にした保育、国際理解等）を教師が意識し、アンテナを張って物事を捉え、幼児に気づかせるとともに、視聴覚教材等を通して、〝何が大切か〟を幼児が感じられるようにする。

＜様式１＞

重点領域４	教師の資質向上を図る				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・日々の保育を振り返り、実態の捉え方、幼児理解、援助について毎日、評価・反省を行い、翌日の保育につながる手立てを考え実践する。	83%	・保護者アンケートの「こどもは幼稚園でのびのびと自分を出し思ったことや考えたことを自分なりに表現することを楽しんでいる」の肯定回答率を100%にする。	98%	A
2	・積極的に教材研究を行い、幼児の実態、イメージ、季節に合った教材を提示したり、遊びが充実するように援助したりする。	83%	・保護者アンケートの「教師は幼児の興味・関心を読み取り遊びがさらに楽しくなるように教材や環境作り、指導方法を工夫している」の肯定回答率が100%になる。	99%	A
3	・園内研究会、区幼研等で学んだことを実践する。幼児理解を深めると共に常に新しいことを取り入れ、挑戦しようとする意欲をもつ。	85%	・諦めないで粘り強く取り組み、新しいことに挑戦しようとする意欲をもった幼児が85%以上になる。	92%	A

＜結果についての分析と改善策＞

〇分析

①担任一人一人が、日々記録をつけて保育を振り返っている。写真で振り返ることで状況を思い出すことができ、幼児の興味・関心、経験していること、学んでいたことを捉えることができ、そのことが翌日の保育に活かされている。

・教師の関わり方として、こどもに強制したり、大人の考え方を押し付けたりせず、一人ひとりが自分らしくいられる「居場所」があるように配慮している。それらのことが保護者の方にも伝わっている。

①教材や環境づくりに関しては、どの学級もとてもよく工夫している。しかしいくら力を入れていても保護者に発信しないと伝わらない。こちらの項目の目標が達成されるということは、発信もきちんとできていたということである。

③教師全員が、学んできたことをすぐに自分の保育に生かしており、フットワークがとても軽い。

〇改善策

・遊びの充実に関しては新しいことや経験のないことに抵抗感の強い幼児もいるため、丁寧に温かい関わりを続けていく。

重点領域５	地域との連携、子育て支援				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・教育内容が伝わるようにクラスだより、ホームページの更新（週１回）、写真掲示等を行うと共に、幼稚園の良さ、質の高さを保護者、小学校、地域に発信し理解を深める努力をする。	80%	・保護者アンケートの「幼稚園は教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定回答率が 100%になる。	99%	A
2	・様々な人に支えられている気持ちをもてるように教育内容を工夫すると共に、教師も積極的に地域と関わり、地域の中にある幼稚園という意識をもつ。	78%	・様々な人に支えられているという気持ちを感じ、感謝の気持ちをもてる幼児が、８０%になる。	89%	B
3	・保護者一人一人の話を丁寧に聴き、保護者の気持ちを受け入れながら信頼関係を構築し、共にこどもを育てているという気持ちを感じ合う。	84%	・保護者アンケートの「幼稚園は保護者の悩みを受け止め子育てについて共に考えようとしている」の肯定回答率が100%になる。	99%	B

＜様式１＞

＜結果についての分析と改善策＞

〇分析

①HP を週１回、更新できたことは成果である。保護者も楽しみにしてくれているが、写真に写る幼児に偏りがあったり、外国籍の幼児には伝わりにくかったりする面もあった。

・スマートフォンを活用し、保護者に個別に写真を見せたり、降園時に実物を見せながら遊びや絵本を紹介したりするよう努めた。お迎えが遅い保護者や、外国籍の保護者に対して、保育内容を十分に伝えることができず、反省点である。

・園庭開放等を利用してもっと積極的に保護者とコミュニケーションを図る機会をもてるとよかった。

・教育内容を地域、小学校に発信することには課題が残った。

②全教職員が様々な人に支えられているという気持ちや感謝の気持ちをもっている。その雰囲気が幼児にも伝わっている。

〇改善策

①ＨＰにアクセスする習慣がなかったり、2 週間に 1 度では日々の保育の様子が伝わりづらかったりするため、保育記録と兼ねたドキュメンテーションを学級で週に 2 回程度掲示するなど工夫していく。

他学年の遊びや幼児に関心はあるが、積極的な関わりや刺激を受け合うことが少ないように思う。玄関ホールや廊下を活用し人との関わりを広げたり遊びの充実を図ったりしていく。年長児との交流の様子等を写真で保護者、幼児に知らせる機会があってもよかった。

・地域にある幼稚園として近隣保育園や砂町銀座、小中学校とのつながりを意識していく。

②言葉が通じなくでも、保護者同士の関わりを深められるような取り組みを、学級懇談会で多く取り入れられると良い。関わりが少ない保護者に対して教師が積極的に話をする機会をもてるようにしていく。

【評語】成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

Ａ：９０％以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

Ｂ：５０％以上９０％未満

Ｃ：５０％未満（目標や努力指標等を見直す）